

主体的に歴史を学び、歴史と自己との関わりを追究する生徒の育成を目指して

－単元全体に関わる「見通し・振り返りシート」の活用を通して－

宮城県涌谷高等学校 横山 将

1 新学習指導要領の実施に向けて

令和4年度から高等学校において年次進行で実施される新学習指導要領では、地理歴史科のなかに「歴史総合」が新設される。新設科目「歴史総合」は、単に世界史と日本史を合わせたというのではなく、「近代化」「大衆化」「グローバル化」といったテーマを設定し、これまで通史的に学んできた歴史をテーマごとにとらえていこうとするねらいがある。

また、設定されている大項目は「近代化と私たち」「国際秩序の変化や大衆化と私たち」「グローバル化と私たち」となっており、歴史的事象と生徒自身との関わりについて考察させることを求めている。

本研究では、令和4年度からの新学習指導要領の実施を前に、その趣旨を踏まえた地理歴史科の単元構想、授業設計に取り組むこととした。

2 授業づくりに関わる課題

令和3年4月、生徒を対象に歴史学習に関する意識調査を実施した。表1では、「歴史を学ぶことはこれからの人生に役に立つと思いますか」という質問に対して、「どちらともいえない」という回答を選んだ生徒の割合が70%になっている。「どちらともいえない」を選んだ理由としては、「社会に出てから歴史上の人物を話す機会がなさそうだから」「クイズ番組で必要になるくらいだと思うから」といった内容であった。

表1 歴史学習に関する意識調査の結果（4月実施）

歴史を学ぶことはこれからの人生に役に立つと思いますか。 (n=98/単位:人)					
回答 対象	1	2	3	4	5
2年生 (割合)	0 (0%)	3 (3%)	69 (70%)	24 (24%)	2 (2%)
※回答 1 まったく役に立たない 2 役に立たない 3 どちらともいえない 4 役に立つ 5 とても役に立つ					

この調査結果から、これまでの歴史学習において、歴史的事象と自己との関わりを見いだせていない生徒が多く、主体的に歴史を学ぶ姿勢が身に付いていないと言え難い。これは、学習の振り返り時に学習した歴史的事象が現在を生きる生徒自身とどのように関わっているかについて十分な考察をしないまま、

当該の学習を終えてしまっていることに一因があると考えられる。

3 研究の内容と検証方法

本研究は、主体的に歴史を学び、学習した歴史的事象が自己とどのように関わってくるのかについて追究する生徒の育成を目指すものである。

その手立てとして、単元全体に関わる「見通し・振り返りシート」を活用し、主体的に歴史を学ぶ態度や歴史と自己との関わりを追究する態度の育成を目指していきたい。

(1) 研究主題に迫るための手立て

① 「見通し・振り返りシート」の活用

(⇒主体的に歴史を学ぶ態度の育成)

単元を設定するに当たり、「歴史総合」におけるテーマ性を重視した単元設定を意識し、通史的に学習していく「世界史A」の内容を並び替えた。そのため、生徒にとっては学習の見通しが立てづらくなることが予想される。また、高等学校学習指導要領（平成30年告示）総則編には「生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること」とある。

それらを踏まえて、単元の冒頭に単元を通じて使用する「見通し・振り返りシート」を配付し、どのような内容を学んでいくのか見通しを立てさせる。また、授業や単元の終盤において、どのような内容を学んだのか振り返りを行わせる。

② 歴史と現在を生きる自己との関わりを追究できる教材や問いの工夫

(⇒歴史と自己との関わりの追究)

歴史と現在を生きる自己との関わりを追究できる教材や問いを授業で使用するプリントに取り入れる。

また、①で記述した「見通し・振り返りシート」の中に、各授業で学んだ歴史的事象と現在を生きる自己との関わりについて記述させる項目を設ける。振り返りの際に学習した歴史的事象の現代的な意義について考察する活動を取り入れる。

(2) 検証方法

(1)の2つの手立てによる授業実践を行った。Ⅰ期は、産業革命を端緒とした経済の近代化を扱い、現在の労働問題につながる当時の労働条件や労働環境等について考えさせた。Ⅱ期は、欧米諸国の市民革命を端緒とした政治の近代化を扱う中で、国民国家

の概念、形成過程や課題について考えさせた。Ⅰ期とⅡ期の「見通し・振り返りシート」における生徒の記述について分析した。また、授業実践の前後で、生徒を対象とした歴史学習に関する意識調査を実施した。

4 Ⅰ期の取組について

【単元名 結び付く世界と東アジアの開港と変動】 （山川出版社 改訂版世界の歴史）

(1) 単元の主題

産業革命による社会や国際関係の変化について単元の主題を以下のとおり設定した。

イギリスに始まる産業革命は、世界各地の社会や経済をどのように変えたのだろうか。また、その変化は欧米諸国とアジア諸国の関係をどのように変えたのだろうか。

各授業においても本時の主題を設定し、それに対する解答が単元の主題につながるよう留意した。単元の主題及び本時の主題を「見通し・振り返りシート」に表記し、毎時の授業を通して単元の主題に迫ることを生徒に意識させた。

(2) 単元の全体計画

「歴史総合」のテーマ性を重視し、単元を設定した。

時	学 習 内 容
1	「単元全体の見通し」
2	「大西洋経済システム」
3	「イギリス産業革命における技術革新」
4	「産業革命による働き方の変容と労働問題」（授業実践Ⅰ）
5	「世界市場の形成」
6	「東アジアの開港と変動（中国の開港）」
7	「東アジアの開港と変動（日本の開国）」
8	「東アジアの近代化の試み」
9	「世界資本主義」

(3) 研究主題に迫るための手立て

① 「見通し・振り返りシート」の活用

「見通し・振り返りシート」に以下の項目を設定し、記述させた。

見通し	・教科書を読んで疑問に思ったところ、気になったところを記入しましょう。
振り返り	・疑問点についてどう考えるようになったか記入しましょう。
	・この授業と単元を貫く問いとの関わりについて記入しましょう。
	・この授業と現在あるいは自分との関わりについて記入しましょう。

② 歴史と現在を生きる自己との関わりを追究できる教材や問いの工夫

単元を通して、歴史と現在を生きる自己との関わりを追究できる教材や問いを工夫した。

ア 映像「カカオ農園で働く子どもたち」

単元全体計画の2時限「大西洋経済システム」では、西欧を中心とする経済システムが構築される中で重要な役割を果たしたプランテーションについて学習をした。その際、ガーナのカカオ農園での児童労働の現状や先進国による途上国への経済的搾取についての映像を視聴させた。その上で、プランテーションの問題点について考察させた。

イ 求人票の提示

単元全体計画の4時限「産業革命による働き方の変容と労働問題」では、当時の諸資料から産業革命による働き方の変容について読み取る活動をした。授業の後半に、産業革命後の働き方の変容と現在の労働管理とのつながりについて考察するために、昨年度の求人票を参照し、労働時間等について確認する活動をした。高校卒業後、製造業へ就職する生徒が多いという本校の進路実績の特徴があり、それらを踏まえて本時の学習内容と自身の進路についての関わりを見いださせた。

(4) 生徒の取組について

① 歴史と自己との関わりへの追究

歴史的事象と現在を生きる自己との関わりについて、「見通し・振り返りシート」のなかに以下の記述が見られた（図1）。

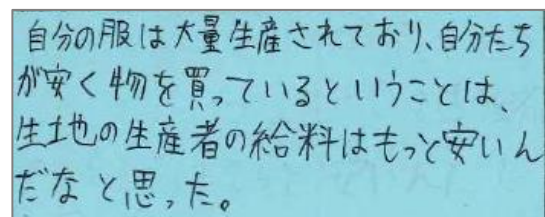


図1 歴史と自己との関わりについての記述

産業革命による大量生産の始まりや労働環境の変化について学習した上で、学習事項と自己との関わりについて考察し、記述している。

(5) 成果と課題（○：成果，●：課題）

- 「見通し・振り返りシート」を利用し、予習する生徒の姿が見られるようになった。主体的に歴史を学ぼうとする姿勢が見られた。
- 単元における学習事項について、「見通し・振り返りシート」1枚に網羅的に記述させたため、単元の振り返りの際に、「見通し・振り返りシート」を利用して、復習する生徒の姿が見られるようになった。
- 「見通し」の立て方として、生徒個人に疑問に思ったところ等を記述させたが、その活動と本時のねらいがずれるため、授業の焦点がぼやけてしまった。
- 「見通し・振り返りシート」に記入する活動が個人の活動に終始したため、他者と意見を共有し、自らの学習を調整しようとする姿が見られなかった。

5 II期の取組について

【単元名 市民革命と国民国家の形成】

（山川出版社 改訂版世界の歴史）

(1) 単元の主題

国民国家の形成過程や影響について単元の主題を以下のとおり設定した。

国民国家はどのようにして形成していったのだろうか。国民国家の形成は、人々にどのような考えや課題をもたらすだろうか。

I期同様に、単元の主題及び本時の主題を「見通し・振り返りシート」に表記した。さらに、I期からの改善点として、単元の主題に対して、自身の考えを記述する欄を設けた。「見通し・振り返りシート」1枚で単元を通して学んだことを概観できることをねらいとした。

(2) 単元の全体計画

I期からの改善点として、「単元全体の振り返り」の時間を設けた。単元の主題について、自身の考えを記述したり、「見通し・振り返りシート」を利用して学習を振り返ったりする活動を行った。

時	学 習 内 容
1	「単元全体の見通し」
2	「アメリカの独立」
3	「フランス革命」
4	「アメリカ独立宣言とフランス人権宣言」
5	「国民国家の形成」（授業実践Ⅱ）
6	「ナポレオンとその帝国」
7	「ウィーン体制と1848年革命」
8	「イタリアの統一とドイツの統一」
9	「単元全体の振り返り」

(3) 研究主題に迫るための手立て

① 「見通し・振り返りシート」とGoogleフォーム及びスプレッドシートの活用

I期の実践を踏まえ、「見通し・振り返りシート」の項目を以下のように変更し、記述させた。

見通し	・【授業の主題】について予想し、自分の考えを書こう。
振り返り	・授業を受けて、【授業の主題】についてどう考えるようになったか。
	・【授業の主題】について、ほかの人の考えを書こう。
	・現在（自分）とどのように関わっているか、自分の考えを書こう。

見通しを立てる活動として、授業の冒頭や前時の段階で「見通し・振り返りシート」内の【授業の主題】について、生徒それぞれが予想を立てる。振り返りの活動として、授業後に、再度【授業の主題】について考え、記述する。

そしてそれをGoogleフォームに各自入力する。生徒それぞれの記述をGoogleフォームからスプレッドシートに変換し、まとめたものをGo

ogleクラスルームで共有する。生徒はそのスプレッドシートを参照し、他者の考えに触れ、良いと感じた考えを自身の「見通し・振り返りシート」に記述する。

「見通し・振り返りシート」とGoogleフォーム及びスプレッドシートという、プリントとICTとの組合せにより、個人の考えを深めながら、効率よく他者の考えを共有する活動を取り入れることをねらいとしている（図2）。Googleクラスルームを利用して、生徒は他クラスに在籍している生徒の考えを共有することもできる。これらの活動を通して、自らの考えと他者の考えを比較しながら、自らの学習を調整しようとする姿の育成を目指した。

授業を受けて【授業の主題】についてどう考えるようになったか書こう。（フォームへの入力も可）	
イギリスの支配と王国の君主制から脱し、初の共和国となった	
君主を置かず、王国から共和国へと近代革命し、各地の人々に大きな希望を与えた	
アメリカが自由・平等のために戦争を起こし、イギリスから独立し、共和国をつくった。	
イギリスから独立した後アメリカは王様を持たず国民が選んだ代表者が政治を行う体制になった	

図2 生徒が共有するスプレッドシートの画面の一部

② 歴史と現在を生きる自己との関わりを追究できる教材や問いの工夫

ア アメリカ独立宣言、フランス人権宣言と日本国憲法の比較

単元全体計画の4時限「アメリカ独立宣言とフランス人権宣言」では、アメリカ独立宣言とフランス人権宣言を比較させた。その上で、日本国憲法との共通点を見いださせた。国民主権や基本的人権の尊重などの近代市民国家を支える原理について理解し、市民革命と現在を生きる自己との関わりについて考察させた。

イ 映像「ラグビーW杯(2007年)におけるフランス代表の国歌斉唱」

単元全体計画の5時限「国民国家の形成」では、当時の諸資料から、国民意識の高揚について考察させる活動をした。授業の前半で、フランス革命の際に国歌として制定された「ラ＝マルセイエーズ」を実際に鑑賞し、現在国歌が果たしている役割について考察させた。

ウ フランスの言語統合に関する資料

「国民国家の形成」では、授業の後半にフランス革命期における言語統合の過程について学習をした。その際、資料として「フランス革命期の言語地図」「フランスの方言に関する報告書」「1793年の法令『共和国のすべての子どもはフランス語を話し、読み、書かなければならない』『地域語を排除しようとする学校教育を伝える資料』を提示した。国民国家を形成する過程の中で、言語が統一され、それがどのような役割を果たしてきたのか、どのように現在と関わっているのかについて考察させた。

(4) 生徒の取組について

① 「見通し・振り返りシート」の活用

ア 授業前後における記述の変容

〈見通し(冒頭)〉⇒〈振り返り(まとめ)〉

フランス革命によって、社会はどのように変化したか。

フランスの昔の政治体制を 変えようとした。	フランス革命によって王が 処刑されたことにより、共 和国となり、平民は旧体 制ではなくなった。 Google フォームに送ろう。
--------------------------	--

図3 「見通し・振り返りシート」の記述

イ 考えの共有

生徒は「見通し・振り返りシート」内の「【授業の主題】について、ほかの人の考えを書こう」の問いに対して、スプレッドシートを参照して、自身が良いと考えた他者の考察を記述する。その活動の中で、「ほかのクラスにもいい考えがありました」という発言があった。Google クラクルームで共有することにより、クラスの枠を越えて多様な考えに触れる姿が見られた。

② 歴史と自己との関わりの追究

ア 国歌の制定について

「見通し・振り返りシート」のなかに以下の記述が見られた。

フランスで国民意識を高めさせるために国歌を歌わせたことと同じように、私たち学生が校歌を歌うことは、学校の一人の生徒であるという意識と自覚をもたせるというところが現在とつながっているのではないかと思います。

イ 言語統合に関して

グループワークの中で以下の趣旨の発言があった。

いろいろな地域から集まる高校において、自分が使用している言葉をさげすまれたとしたら、とても腹立たしい。言語を統合することは必要かもしれないが、差別された当事者のことを考えると心苦しい。

(5) 成果と課題 (○：成果，●：課題)

- Google フォームとスプレッドシートを活用することで、効率よく他者の考えを共有することができ、自らの考えと比較し、自らの学習を調整しようとする姿が見られた。
- 「見通し・振り返りシート」の記述や授業内の発言において、学習した歴史的事象と現在を生きる生徒自身との関わりについて考察している姿が見られた。
- 授業終盤に「見通し・振り返りシート」の記述とGoogle フォームの入力を行うため、振り返りの活動に多くの時間を割かれる。全体を通した時間配分の工夫が必要であった。

6 1年間の総括（成果と今後の課題）

(1) 歴史と自己との関わりの追究

4月に実施した意識調査を11月にも再度実施した。表2では、「歴史を学ぶことはこれからの人生に役に立つと思いますか」という質問に対して、「どちらともいえない」という回答を選んだ生徒の割合が減少し、「役に立つ」という回答を選んだ生徒の割合が大幅に上昇した。「見通し・振り返りシート」の活用や教材、問いの工夫により、学習した歴史的事象と現在を生きる自己との関わりについて考察することで、生徒の意識が変容したと考えられる。

表2 歴史学習に関する意識調査の結果（11月実施）

歴史を学ぶことはこれからの人生に役に立つと思いますか。 (n=98/単位：人)					
回答 対象	1	2	3	4	5
2年生 (割合)	1 (1%)	5 (5%)	28 (28%)	59 (60%)	5 (5%)

※回答
1 まったく役に立たない 2 役に立たない
3 どちらともいえない 4 役に立つ 5 とても役に立つ

(2) 「問いを表現する」活動との関わり

I期で行った、疑問点とそれについて分かったことを記述させる取組は、本時の主題を考察する活動を優先させたためII期では割愛した。しかし、新学習指導要領においては、「歴史に対する驚きや素朴な問いが歴史学習の出発点である」とされており、生徒の問題意識を活用することが大切である。今後は、「問いを表現する」活動の一つの視点として、歴史と現在を生きる自己との関わりを追究する問いを設定させ、考察させることが必要であると考えている。

(3) 「見通し」の立て方

本研究においては、授業者が設定した単元の主題や本時の主題を通して、単元全体や各授業の学習の「見通し」を立てる活動を行わせた。今後は、単元を通してどのようなことを学びたいのか、その学びにどのような意味があるのか等を学習者が主体となって考え、学習の「見通し」を立てる活動になるよう工夫していきたい。

【引用・参考文献】

- 1) 文部科学省：高等学校学習指導要領解説 地理歴史（平成30年7月）
- 2) 国立教育政策研究所：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 地理歴史
- 3) 川端裕介：『見方・考え方を働かせる発問スキル50』

【図表等の許諾について】

表1, 2は、実践前後に実施したアンケート調査の一部である。図1～3は授業実践の中で生徒が記入したワークシート、入力したスプレッドシートの一部である。氏名を伏せて使用することとし、生徒の保護者から使用許諾を得た。